

昨日の3日に行われた東京マラソン2024では、約3万7000人がそれぞれの思いを抱きながら走り続けていました。沿道には沢山の支援の人や観客が詰めかけ、拍手と声援を送っていました。また、東京マラソンは、パリ五輪出場の男子マラソン代表をかけた最後の選考レースでもあり、壮烈な感じを受ける違う世界がありました。五輪への切符をつかんだ選手、無念さを味わった選手、それぞれの戦いであったマラソン、勝負の大変さですね。というように、凄い人たちがいっぱいでした。田町駅前が折り返し点でUターン。少しだけシャッターを押しました。多くの人たちが楽しそうに、いろんなスタイルで走っている、自己表現の場でもあるようでした。都庁前をスタート⇒浅草や銀座などの名所を経由⇒東京駅前のゴール。いろいろな個々のドラマがある様子が掲載されていましたが、走り続ける楽しさ、その意味がきっと人を育ててくれているのだろうと思いました。

3月のスケジュール表を添付いたします。宜しく願いいたします。(菅野)

目次

- 1 「治療と仕事の両立支援コーディネーター事例検討会」を開催しました！
- 2 今月の現場から（保健師コラムリレー）
- 3 関連情報

1 「治療と仕事の両立支援コーディネーター事例検討会」を開催しました！

奈良産業保健総合支援センター <https://www.naras.johas.go.jp>

一昨年度・昨年度に引き続き、「両立支援事例検討会」を次のとおり開催しました。

日 時：令和6年2月14日（水）午後2時00分～4時10分

会 場：ホテルリガーレ春日野

参加者：20名（両立支援コーディネーター基礎研修修了者）

●事例検討会のスケジュール

- (1) 開講あいさつ：上坂産業保健専門職
- (2) 基調講演【30分】：鴻池産業保健相談員
テーマ「両立支援コーディネーター事例検討会に先立って」
- (3) オリエンテーション（検討事例の紹介等）【5分】
：松田 京都産保センター 産業保健専門職（統括ファシリテーター）
- (4) 事例検討（グループワーク）【45分】 (5) 各グループからの検討結果発表【20分】
- (6) 総括説明（まとめ）【10分】：松田統括ファシリテーター
- (7) 意見交換・交流会【15分】 (8) 情報交換（閉講後）【5分】

参加者には、約2週間前にグループワークで検討する事例（脳卒中）の概要、「両立支援のためのガイドライン」及び「企業・医療機関連携マニュアル」を送付することにより、検討事例の事前のチェック、考察等をお願いするとともに、検討会に向けての連絡事項等を通知しました。

●会場レイアウト、グループワークの進め方等

- (1) 会場は、AからDの4グループに分けたレイアウト
- (2) 各グループは、参加者5名にファシリテーター（当センター両立支援促進員等）を各1名配置各グループにおける進行役と書記（発表者）を選任
- (3) 各参加者にワークシートを配布
参加者が要支援対象者（患者＝労働者）の「医療面」、「経済面」、「就労継続面」における「課題」と「必要な支援」を書き込むためのシート
※進行役のリードのもと、各参加者が意見を出し、討論・検討し合った中から「課題」と「必要な支援」をワークシートに書き込む。
- (4) 各グループに模造紙サイズのワークシート（大）1枚配布
上記(3)で書き込んだ「課題」等を色別のポストイットに記入し、やはり参加者の討論・検討を通じて重要度等を判定・選択のうえ、より必要性の高いものをワークシート（大）に貼付（⇒発表）

●基調講演について（鴻池相談員）

- ・高齢労働者の増加に伴い、病気治療が必要な労働者も増加している。
- ・働き方改革への取組として、「仕事」と「子育て・介護・治療」との両立が求められている。
- ・労働者（患者）には、「医療面」、「仕事面」、「家庭面」とさまざまな困りごとが存在している。
- ・「トライアングル型支援」とは、両立支援コーディネーターが労働者（患者）に寄り添いながら、継続的に相談支援を行いつつ、主治医・企業・産業医と連携・調整を行い、治療と仕事の両立プラン作成などの支援を進めていく仕組みのことです。
- ・がんの治療⇒体に負担が少なく入院期間が短くなってきている（外来通院は増加）。
- ・脳卒中の症状、治療法等

●グループワーク（事例検討）について

グループワークでは、事前に検討事例の概要を送付し、考察等をお願いしていたこともあり、4つのグループすべてにおいて、開始当初から積極的な発言、討論等が交わされました。また、参加者の職種等が多岐にわたっていたことから、それぞれの専門分野における視点からの発言も多く出されました。討論・検討が行き詰まるといった場面がほとんどなかったことから、配置しましたファシリテーターの出番も少なかった印象でした。

ワークを通じて出されました課題解決のための方策としては、概ね次のとおりでした。課題解決に向けて支援等が必要な事項として、主治医と産業の連携、通院の頻度と休暇制度、再発への不安（予防）、治療期間、後遺障害、高額医療制度、傷病手当金、職場復帰プランの策定、勤務時間・休憩時間、通勤手段・就労場所の配慮、メンタル面も含めた定期面談、上司・同僚の理解・・・等々

●参加者アンケートについて（20名中19名から回答）

- ・回答は、5段階評価で行い、上位評価（5と4）が得られた割合は、

事例検討会の理解度《18/19》 満足度《18/19》 有益度《17/19》と高評価をいただきました。ただ、開催時間については、3名から「短い」との回答がありました。

・自由記入方式のご意見としては、異業種・他業界・色々な職業の方と話し・交流ができて有意義であった。参加者からグループワークを通じて、それぞれの視点を学べた。活発な討論ができた。学び多い機会となった。コーディネーター間の連携の重要性を実感できた。グループワークの時間をもう少し長くってほしかった。

結びになりますが、今回の事例検討会は、参加者数が20名と昨年度から大幅に増加し、また、参加者の職種が、医療ソーシャルワーカー、社会保険労務士、企業の労務担当者、キャリアコンサルタント、公認心理師等と多岐にわたっていたこともあって、各グループにいろいろな職種の方が混在されていたことから、上記アンケート結果にありますように多職種のコーディネーターとの交流が成果としてあげられていました。

また、各参加者が事前考察等を済ませていただいていたことから、グループでの討論・検討の開始当初から発言が飛び交うという主催者側にとってありがたい状況となりました。ただ、議論が白熱したこともあって、ワークの時間が短いというアンケート意見もあり、来年度への課題となりました。

病気の治療を適切に受けながらも働き続ける労働者は、今後も益々増加していくものと思われまます。そうした労働者（患者）に寄り沿いながら、主治医、企業・産業医と仲介・調整を行う両立支援コーディネーターの役割は重要です。

来年度も引き続き開催を計画しますので、多くの両立支援コーディネーターのご参加をお待ちしています。

※両立支援コーディネーター対象者20名の参加はすごい！ たくさんのご意見がでて有意義な会議の様子が伝わってきます。ご快諾ありがとうございました。（菅野）

2. 今月の現場から（保健師コラムリレー）

治療と仕事の両立支援についての産業保健職の役割について

キャノン株式会社 下丸子健康支援室 伊藤雅代

<https://www.ryoritsushien.johas.go.jp/staff.html>

弊社の産業保健活動は、医師である社長の指示のもと1950年（昭和25年）医務室が設立されたところから始まっています。開設当初働いていた先輩保健師の記録から、社員一人一人の健康を大切にしながら、一次から三次予防までカバーした施策を展開していた様子がうかがえます。現在会社規模、対象者の平均年齢や社会情勢の変化の中で、健康第一主義という行動指針のもと、メンタルヘルス施策とがん対策を含んだ生活習慣病施策を中心に産業保健活動を展開しています。

私自身は、事業所産業保健活動の中で、健康施策の事業所展開とともに、社員からの個別相談を行ってきました。

今回は思わぬ病気に見舞われ、休職から復職に至った社員との関わりについ

てご紹介したいと思います。

管理職より、悪性腫瘍が発見されどうしたらいいかと部下が悩んでいると相談を受けました。ご本人は動転し、夜も眠れない様子で、お会いした時には、どうして、どうしたらいいのだろうという言葉の繰り返す状況でした。時間をかけお話を伺いながら、主治医から説明された治療計画を確認しました。幸い早期で、通常の治療範囲の様子でしたが、ご本人にとっては、病気への不安、初めての長期休業への不安があり動揺されていました。ご本人が落ち着いたところで、会社の休職制度について人事担当者とともに資料を使って丁寧に説明し、必要なら同様のことをご家族や主治医への説明もできること、かつ、不明なこと、不安なことがあればいつでも対応すること、休職中の連絡方法をお伝えしました。

*この後の経過がまだ続きます。ぜひ最後までお読みください。安心あるものの、なんらかの不安はつきもの、「がん」という病名だからでしょうね。早期発見・治療で回復する方向ではありますが、丁寧な伴走する関係づくり、そして、担当者はまさに個と組織をコーディネートする大きな存在ですね。(菅野)

3 関連情報

◇ 厚生労働省▼△新着情報配信サービス から

(1) 広報誌『厚生労働』2024年3月号(3月1日発売)

https://www.mhlw.go.jp/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/202403.html

目次

▶特集 [早期発見と治療と仕事の両立で がんの克服をめざす](#)

▶TOPICS

看護チームの一員として患者に寄り添う看護補助者(ナースエイド)という仕事

▶特別企画 [座談会 国土交通省&厚生労働省の連携による「働き方改革」](#)

この4月、「建設業」「ドライバー」「医師」へ時間外労働の上限規制が適用されます!

▶未来のつぼみ：[「ひと、くらし、みらい」のために働く使命と魅力](#)

▶地方厚生(支)局探検隊：[東北厚生局 企画調整課\(復興支援室\)](#) など

(2) 労働基準関係法制研究会 第3回資料

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=H_n-hPRMIB39-j6NY

[議事次第 \[PDF形式:52KB\]](#)

[資料1 労働基準法における「事業」及び「労働者」について \[PDF形式:3.6MB\]](#)

[資料2 現行の法定開示項目等 \[PDF形式:593KB\]](#)

[参考資料1 家事使用人の雇用ガイドライン \[PDF形式:17.3MB\]](#)

(3) 第 112 回労働政策審議会労働条件分科会労災保険部会資料

<https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=s1VRmUnCvNgBOE0hY>

配布資料

[【表紙】第 112 回労災保険部会 \[PDF 形式：56KB\]](#)

[資料 1 労働者災害補償保険法施行規則等の一部を改正する省令案要綱等 \[PDF 形式：164KB\]](#)

[資料 2 介護（補償）等給付・介護料の最高限度額・最低保障額の改定について等 \[PDF 形式：1.4MB\]](#)

「労働者災害補償保険法施行規則等の一部を改正する省令案要綱」については、労働政策審議会に対し諮問を行い、これを受け、第 112 回労災保険部会で審議が行われ、妥当であるとの答申が行われました。（別紙参照）

[【別紙】答申文 \[PDF 形式：82KB\]](#)

(4) 令和 4 年度 介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査結果

<https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=nXt4lglbjc3nuEPY>

調査結果の概要

- [令和 4 年度調査結果概要 \[722KB\]](#)
- [令和 4 年度調査結果概要版図表 \[330KB\]](#)
- [資料編（都道府県別調査結果） \[5.7MB\]](#)

◇ J I L P T から

(1) 『労働関係法規集 2024 年版』 現在予約受付中！

3 月 1 8 日（月曜）より順次発送予定です。

主要な労働関係法規を持ち運びに便利な分量・判型に収めたコンパクトサイズの法規集です。2024 年版では、「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」を新たに収録するとともに、「労働基準法施行規則」「有期労働契約の締結、更新、雇止め等に関する基準」「労働審判法」「高齢者等の雇用の安定等に関する法律施行規則」の改正法令を収録しています。

【B 6 判変型 1,191 頁 定価：1,980 円（本体 1,800 円） 3 月 15 日刊行予定】

<https://www.jil.go.jp/publication/ippan/houkishu.html?mm=1942>

(2) オンライン展示会「ライフ・ワーク・バランス EXPO 東京 2024」／東京都

東京都は「ライフ・ワーク・バランス」の実現に向けリアル開催した総合展「ライフ・ワーク・バランス EXPO 東京 2024」のステージプログラムをオンデマンド配信するとともに、会場内の様子を VR 空間上に再現した「バーチャル展示会」を 3 月 7 日(木)まで開催している。視聴する場合は、HP から登録する。

<https://lwb-expo-2024.metro.tokyo.lg.jp/>

(3) 「コロナ禍は終わった」とする企業は40.2%／民間調査

帝国データバンクは16日、「コロナ禍の終焉に関する企業アンケート」結果を発表した。2020年1月に新型コロナウイルスの国内感染者が確認されてから4年経過、23年5月には新型コロナウイルスは「5類」へ移行した。コロナ禍の終焉に関する意識について、「コロナ禍は終わった」とする企業は40.2%。「どちらとも言えない」は27.7%、「コロナ禍は続いている」は31.3%。新型コロナの流行前（2019年以前）と比較し、自社の働き方が多少なりとも「異なる」とした企業は66.3%。うち、最多は「2割程度異なる」の37.1%。他方、「以前と同じ」企業は30.7%。

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p240204.pdf>

(4) 正社員の人手不足は52.6%／民間調査

帝国データバンクは2月26日、「人手不足に対する企業の動向調査」結果を公表した。2024年1月時点の、全業種の従業員の過不足状況について、正社員が「不足」の企業は52.6%。業種別では「情報サービス」が77.0%で最多。「2024年問題」が懸念されている建設、物流、医療業では、それぞれ約7割が人手不足。非正社員の人手不足割合は29.9%で、業種別では「飲食店」（72.2%）が最多。人手不足を感じる企業では「2024年度における正社員の賃上げ実施見込み」は65.9%で、人手が「適正」（55.7%）、「過剰」（51.6%）な企業に比べ、賃上げに積極的である傾向が見られるとしている。

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p240209.pdf>

(5) 「キャリア形成に寄与する学び直し・リカレント教育」

<第1部：研究報告> ※オンデマンド配信（3月16日土曜～19日火曜）

「AIと共に働くための学び直しとは？」

「産業人材ニーズと大学教育内容の関係の見える化の試み」

<第2部：事例紹介・パネル討論> ライブ配信（3月19日火 13時50分～16時15分）

・職業訓練の実践の取組（高齢・涉外・求職者雇用支援機構）

・リカレント教育の実践の取組（東京理科大学、愛媛大学）

コーディネーター 堀有喜衣 JILPT 統括研究員

https://www.jil.go.jp/event/ro_forum/20240319/index.html?mm=1942

◇ 労働安全衛生総合研究所 メルマガより

(1) 「令和5年度 過労死等防止調査研究センター 研究成果発表シンポジウム」

ハイブリッド開催のご案内

当研究所過労死等防止調査研究センターでは、過労死等の最新の調査研究成果を発表し、過労死等の防止対策を考える研究成果発表シンポジウムを、2024年3月11日（月）13:00～ハイブリッド開催します。事前登録にて、どなたでも無料でご参加いただけます。

(2)「妊娠時の食・生活習慣」について今回は、その中で令和5年度から新規に開始した「勤労女性の妊娠時の食・生活習慣に関する時間栄養学的研究」についてのご紹介

日本では働く女性が年々増加しており、出産前後に就業を継続する割合も増加していますが、未だ低いのが現状です。そのため、働きながらの妊娠や出産、産後のスムーズな社会復帰を支援するためには、妊娠前後のケア（妊産婦・子どもの健康）をより充実させることが重要です。一方、近年の日本の出産に関する統計データでは、出生時の低体重児の割合が増加しており、ここ10年間はその割合が9.5%と高止まりしている状況です。

なお、詳細な研究内容については、下記URLからご覧いただけます。

<https://www.research.johas.go.jp/ninshin2023/index.html>

*参加をご希望の方は、以下のリンク先よりご登録をお願いします。

↓↓↓以下のリンク先で内容をご覧ください

<https://records.johas.go.jp/news/r5sympo>

◇ 産業医学振興財団 から

産業保健実践講習会 岡山会場（令和6年6月2日（日曜）開催）の受付を3月11日（月）正午から開始いたします。

1. 対象者： 産業医、保健師、看護師、衛生管理者、衛生推進者等
2. 取得単位：日本医師会認定産業医制度産業医学研修の単位（生涯研修）
日本産業衛生学会の産業保健看護専門家制度の研修単位
3. 受講料：20,000円 4. 受付期間： 3月11日（月）正午～ 定員に達するまで

講習会の詳しいご案内、お申し込みはこちらからお願いいたします。

https://www.nishitetsutavel.jp/niccs_sangyohoken_jissen_r6/0602okayama

◇ ◆【From_M】 から 情報提供ありがとうございます

◆独立行政法人労働者健康安全機構

さんぽセンターWeb ひろばをリニューアルしました。

<https://www.johas.go.jp/Portals/0/sanpocenter/webhiroba.html>

こんな支援が役に立った！ 中小企業の産業保健事例
産業保健お役立ち資料 全国のさんぽセンターの取り組み

◆日本人のがんゲノム異常の全体像を解明

—約5万例のがん遺伝子パネル検査データを解析— | 国立がん研究センター

https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2024/0229/index.html

https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2024/0229/20240229.pdf

【発表のポイント】

がんゲノム情報管理センターに蓄積された様々ながん種由来の約5万例のがん遺伝子パネル検査データを解析し、日本人におけるがんゲノム異常の全体像を解明しました。

◆パンフレット『外国人材との共生をめざす創造的対話のススメ

～持続可能な地域と職場づくりに向けて～』：CSO ネットワーク

<https://www.csonj.org/infoarchive/publication/infoarchive-publication-pamphlet2>

https://www.csonj.org/images/01_taiwapamph_B5_web.pdf

https://www.csonj.org/images/02_taiwapamph_B4_web.pdf

◆40代から直面する中年の危機：乗り越えるための3つの問い

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/096c9f26dc458375d89057ad4b8bc5b2af4f2287>

中年の危機とは？

40代?50代の半数以上が経験するといわれる中年の危機とは、加齢に伴って訪れる心身の不調、子育ての終了や親の介護など複数のライフイベントが重なりやすいことから次の世代に残せるものを考えたり、人生の残りの時間を意識するようになり心が不安定になる状態のことをいいます。

◆精神科医が教える、職場での「スルースキル」の高め方

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d49cf34b1dabe37de578df7faabbfa2e2e3d1fcf>

「感情的な上司が苦手…」 「必要以上に口調で注意をしてくる先輩がストレス…」

このように職場の人の行動や言葉が、非常にストレスとなっている方も少なくありません。(略) では、どうすれば上手く対処できるのでしょうか？

1つの方法として「スルースキル」を高めるという方法があります。

◆健康診断はなぜ会社の義務か？ 意味理解し上手に活用を 健康経営の新時代 (7)

健康企業代表・医師 亀田高志

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e70478ca9bf377a9d5536c66c93bdff284fa44de>

「健康問題を悪化させる恐れがあれば、働き方を調整」

長く働くうえでも健康診断の上手な活用が必要だ

職場が1年に1回は実施している定期健康診断ですが、読者の方々はどのように捉えているのでしょうか？

◆「女性差別をなくす」均等法の母・赤松良子さんが「人生で一度だけ、仕事を辞めたいと思った瞬間」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/07c515c05f3720e2d97eaca55feaba31e0fe75ee>

2月6日に元文部相で、日本ユニセフ協会会長の赤松良子さんが亡くなった。94歳だった。女性官僚として、入省から定年まで一貫した仕事のテーマは「女性差別をなくす」。訃報を受けて、「赤松良子さんのおかげでいま私は会社で働くことができている」といった追悼の声があがった。

◇ 職場で攻撃的な人は“日本語覚えて”で受け流す

新入社員がメンタルを削られないためには（東洋経済オンライン）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/c44e82e2766ecfe4a6802289a3d86329712d5d3d>

◇どの会社にもいる「他人を見下し、自己保身に走る」職場を腐らせる人たちの正体

（現代ビジネス）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8a016d61421396f03bf9d199dd22738b0b4e6d05>

小野田 富貴子（両立支援担当）

fukiko-onoda@honbu.johas.go.jp

中山 篤 （メンタルヘルス担当）

atsui78natsu@gmail.com

菅野 由喜子（メンタルヘルス担当）

yukikan28@gmail.com